

JBLにおける選手とスタッフの雇用の研究

スポーツクラブマネジメントコース

5007A309-6 貝塚宗義

研究指導教員： 間野義之准教授

JBL は企業主体のリーグとして生まれ、その所属のチームの全てが企業チームであり、企業主体チーム主体のリーグ運営を行ってきた。それがバブルの崩壊後、母体企業の経営の圧迫などにより、多くの企業チームが休部または廃部となった。また、多くのチームが休部や廃部となる中、これまで企業チームのみだったリーグに、新たな運営方式のクラブチームというチーム形態が現れた。そして、企業チームも競技環境の変化とともに今までの正規雇用契約の選手だけのチームから、非正規雇用契約や、プロ契約の選手と雇用形態の違う選手が混在するチームも現れてきた。

このような複雑な環境の中で新JBLはリーグとしてその価値を向上させ、プロリーグを目指していく事となるがその課題は多い。その現状の課題として以下2点が大きな課題であると考えられる。

①チームの戦力の格差

②選手とスタッフの雇用形態

① 戦力の格差は大きな課題である。バスケットボールのように確立のスポーツである場合、戦力の均衡が非常に重要になってくる。例えばサッカーの場合では、1点、2点を争うスポーツでありうる為に、大きな不確実性が生まれ、番狂わせも見れる事がある。しかし、バスケットボールはハイスコアなゲームであり、得点が100点を越える事が多くあり、非常に確実性の高い競技である。リーグ戦を面白くする為にアリーナの観客動員数を高めるためには、試合結果やリーグ優勝のある程度の不確実性が必要である。その不確実性が無く、例えば試合始まる前から試合結果が予想出来てしまうような、そしてシーズン前からリーグの優勝チームが予想出来てしまうようなスポーツだとそのリーグの面白さが減る。面白さが減ることによって観客からの需要は下がり、観客数も当然減ってくる。そうならないように、試合をより魅力的にする不確実性を維持する為には、チーム間の力の差を広げない事が重要になってくる。戦力の格差の原因は、リーグの所属チームが企業チーム主体であり、正社員雇用契約などで一旦会社に入った選手が他のチームに移ることが無いからであると考えられるのではないかな。プロリーグの方向に動いていくには戦力均衡の為に選手に流動性を持たせなければならない。この流動性を持たせる為に選手の雇用形態も、変わっていかなければならないのではないかな。

② 雇用形態が変わらなければならないが、実際どのような選手、スタッフの雇用形態がプロであるか考えるのか。「競技を行う事によって収入を得ること」をプロとする定義があるが、この場合、競技による収入が100%なのか、50%でも競技で収入を得ていればプロに当てはまるのか、定義が曖昧な為、不十分であるか考える。よって本研究では職業を競技者とすることを前提とし、「自分の行っている競技(チーム活動)が労働時間に占める割合が100%であること」をプロの定義とする。そして、この労働時間に占める割合が100%である雇用形態を理想の雇用形態と考える。

研究目的

JBL における選手とスタッフの雇用の現状と課題を明らかにすることにより、選手、スタッフの競技環境の向上、リーグ価値の向上を図ることを目的とする。

研究方法

●調査対象

JBL所属の8チーム

●調査期間

2007年12月3日から2008年1月4日

●調査方法

JBLに対するアンケート

(Excel へのデータ入力方式)

●調査項目

人件費

総人件費

監督・コーチ他チームスタッフ人件費

日本人選手人件費

外国人選手人件費

マネジメントスタッフ

結果

JBL 課題としてチームの戦力の格差、選手、スタッフの雇用形態の 2 つが課題として考えられたが、実際に JBL を調査した結果、当初挙げた2つの課題が明確になり課題の改善点が明らかになった。その改善方法は以下の通りである。

① チームの戦力の格差

改善方法:

サラリーキャップ制度の導入

ドラフト制度の導入

FA 制度の導入

② 選手とスタッフの雇用形態

改善方法:

正規雇用契約から非正規雇用契約への雇用形態の変更

労働時間に占めるチーム活動の割合を 100%になるべく近づける

しかしながら、②選手とスタッフの雇用形態について、雇用形態の変更に伴う新たな問題も明確になった。それは③セカンドキャリアの問題である。

③セカンドキャリア

改善方法:

セカンドキャリア支援センターの設置

セカンドキャリア支援金

以上による改善方法で現状の問題は解決出来ると考

えられる。

以上、本研究により課題とその改善方法を明確にする事が出来た。以上に挙げてきた課題の改善方法は、リーグが先導し、リーグ所属の企業チームの協力を仰ぐ事が出来て初めて実現するものである。各企業チームの現状もあるが、個々のチームだけを考えるのではなく、リーグ全体の課題として考え、この変革の時期にリーグと所属チームが一丸となって変わっていかなければならない。リーグが新たな枠組みを作って行き、それと同時に各企業チームが選手とスタッフの競技環境を改善することにより、チームの価値、そしてリーグの価値の向上につながり、しいてはバスケットボール界全体の向上に繋がっていくものと考え